

IRAKA A Millennium of Tile Roofing

千年の瓦

古代瓦を葺く



名古屋会場



関連記事掲載・番組等でのご紹介のお願い

このたび竹中大工道具館では、2018年1月20日（土）から3月11日（日）まで、名古屋のトヨタ産業技術記念館にて企画展「千年の葺（いらか）－古代瓦を葺く－」を開催いたします。

唱歌「鯉のぼり」の歌詞「葺（いらか）の波と雲の波～」の葺（いらか）とは瓦屋根のことです。瓦屋根が重なっている風景は、どこか懐かしい日本の原風景を思い浮かばせます。今回は、そうした瓦にスポットをあて、瓦職人の「技」と「心」をご紹介します。

瓦は土をこねて高温で焼き上げたもので、上手に作れば、なんと1000年も、屋根の葺き材として使うことができます。実際、元興寺極楽堂と禅室の屋根には1400年の風雪に耐えて今なお現役で建物を守り続けている飛鳥時代の瓦があります。一体誰がどのようにして作り上げたのでしょうか。

本展ではそうした長寿命の古代瓦にスポットをあて、瓦のつくり方、葺き方について、建築という切り口から瓦を読み解いていきます。

ぜひ会場にて瓦に込められた職人の心意気をご覧ください。

つきましては、是非貴媒体にて本展をご紹介いただきますようお願い申し上げます。

なお、広報用に提供写真をご用意いたしております。読者・視聴者プレゼントにつきましても写真借用申込書にてお申し込みを受け付けております。ご希望の場合は、別紙の写真借用申込書にてご請求ください。その他、ご不明な点や資料等のご要望、撮影などの取材を希望される場合は、下記広報事務局までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

<お問い合わせ>

「千年の葺－古代瓦を葺く－」展広報事務局（竹中大工道具館内）

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

TEL=078-242-0216 FAX=078-241-4713 E-mail=iraka@dougukan.jp



2. 東大寺大仏殿昭和大修理

《見どころ》

1. 瓦づくりの原点に立ち返り、古代瓦のつくり方を製作道具や映像をまじえて、わかりやすくご紹介します。
2. 瓦の形や紋様などの意匠面だけではなく、瓦を葺く技術にも焦点をあて、建築という切り口から瓦を読み解いていきます。
3. 難しくなりがちな技術的内容を大型模型や映像、触れる展示品などで親しみやすく解説します。
4. 迫力ある鷗尾^{しび}、造形豊かな鬼瓦、多様な紋様の軒瓦を目の高さでご覧いただけます。

展示内容

第1章 千年の葺

飛鳥時代に朝鮮半島の百濟^{くだら}より伝わった瓦技術は、日本の風土にあわせて、独自の變化・発展を遂げています。その千年の歩みをたどります。

第2章 古代瓦をつくる

瓦が伝わった当初のつくり方は、今では不明です。本展では瓦の原点に戻り、長年職人の立場で「実際葺ける古代瓦」を研究してきた山本清一氏^(※)が復元した、古代瓦のつくり方を紹介します。

第3章 瓦を葺く

瓦の役割は雨を漏らさず、屋根を長持ちさせることです。雨が多い日本では、瓦そのものはもちろん、葺き方にも様々な工夫がされています。その知恵と技を紹介します。

第4章 トピックス展示

瓦の様々な造形を楽しんで頂けるよう、迫力ある鷗尾^{しび}、鬼瓦、軒瓦を展示します。

◎特別展示として姫路城大天守の鯨^(実寸)もご覧いただけます。

《主な展示品》



3. 古代瓦の製作道具（一部）



4. 屋根の葺き方模型



5. 軒平瓦の木型



6. 瓦の選別道具



7. 唐招提寺金堂の鴟尾

3.5.7.9. すべて復元品（山本瓦工業株式会社所蔵）



8. 山本清一（山本瓦工業株式会社社長）（※）

1932年奈良県生まれ。14歳で瓦葺職人の父に弟子入り。その後、井上新太郎のもとで文化財の仕事に入る。主な仕事は、法隆寺金堂、松本城、姫路城、東大寺大仏殿、薬師寺伽藍、唐招提寺金堂、平城宮跡の朱雀門や大極殿など多数。著書に『めざすは飛鳥の千年瓦』。選定保存技術保持者。黄綬褒章受章。旭日双光章受章。日本伝統瓦技術保存会会長。

《会場写真》

●東京会場 平成29年8月21日(月) - 10月6日(金)



瓦をつくる



瓦の選別・仮並べ

●神戸会場 平成29年10月14日(土) - 12月3日(日)



瓦曼荼羅

鬼瓦

展覧会概要

- 名称 千年のいらか葺ー古代瓦を葺くー
- 会期 平成30年1月20日(土)～3月11日(日)
- 会場 トヨタ産業技術記念館 特別展示室
〒451-0051 名古屋市西区則武新町4-1-35
TEL 052-551-6115 FAX 052-551-6199
- 開館時間 9:30～17:00 (入場は16:30まで)
- 入場料 無料(常設展は別途入場料が必要)
- 主催 竹中大工道具館
- 共催 トヨタ産業技術記念館
- 特別協力 山本瓦工業株式会社
- 協力 鶴工舎、元興寺、興福寺、竹中工務店、橘寺、唐招提寺、東大寺、法隆寺、薬師寺
- お問合せ 「千年の葺」展広報事務局
- 公式サイト <http://www.dougukan.jp/iraka>



TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM



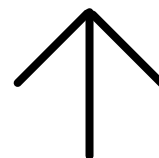
公益財団法人 竹中大工道具館

企画展
「千年の葺
—古代瓦を葺く—」

広報用画像借用申込書

FAX 送信番号 078-241-4713

竹中大工道具館 広報事務局行



- ◆画像データ（JPEG）をご提供いたします。下記記入欄にご記入のうえFAXまたはメールにてお申込みください。画像データをメールにて送信いたします。
- ◆読者プレゼントとして本展図録5部を提供することができます。
- ◆その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。

媒体名		
掲載予定日		
画像送付先	貴社名	
	ご担当者名	
	E-mail	
	ご住所	
	電話・FAX	
画像名 (番号に✓)	<input type="checkbox"/> 1	平城宮跡大極殿
	<input type="checkbox"/> 2	東大寺大仏殿昭和大修理
	<input type="checkbox"/> 3	古代瓦の製作道具（一部）
	<input type="checkbox"/> 4	屋根の葺き方模型
	<input type="checkbox"/> 5	軒平瓦の木型
	<input type="checkbox"/> 6	瓦の選別道具
	<input type="checkbox"/> 7	唐招提寺金堂の鷗尾
	<input type="checkbox"/> 8	山本清一（山本瓦工業株式会社社長）
	<input type="checkbox"/> 9	東大寺の鬼瓦
読者プレゼント（図録5部）	<input type="checkbox"/> 希望する	or <input type="checkbox"/> 希望しない

- ▶画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさらないでください。
- ▶掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局までFAX送信ください。
- ▶お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

■ お問い合わせ先

「千年の葺—古代瓦を葺く—」展広報事務局（竹中大工道具館内）

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 TEL：078-242-0216 FAX：078-241-4713

E-mail：iraka@dougukan.jp

